



第300号 ・ 2021年02月01日発行

新著『同志社を掘る』を語る(1)

本井康博氏 (同志社大学神学部・元教授)

■はじめに

過日、「同志社ファンを増やす会」の多田直彦氏から、「同志社ファン・レポート」が300号を迎えるので、記念に「同志社人が誇りに思える情報」を投稿いただきたい、とのメールが届きました。そこで、新著『同志社を掘る---創立150年に向けて---』をご紹介することが、適切と考え、3回にわたって連載することになりました。本号はその第1回目になります。

自画自賛的に申しますと、本書はさながら「同志社人が誇りに思える情報」満載の情報誌です。創立145年を迎えた同志社が、ダテに年をとっただけの古い伝統校でないことがお分かりいただけると思います。他の大学、とりわけ他の私立大学と比較した場合、その差は歴然としております。

近年の例で言えば、自校史です。同志社大学は全国的に見ても、この面ではもっとも先駆的な大学です。自分の学校を教材にして日本近代史が学べる大学は、そう多くはありません。だから早稲田大学が自校史、「早稲田を知る」を立ち上げる際には、助っ人を頼まれました。以後、毎年、1コマいただいて、早大生に同志社情報を伝達しています。「早稲田を知るには、同志社情報が不可欠」というわけです。早稲田は慶応義塾からも私同様に一人、毎年、ゲストスピーカーを呼んでいます。

もしも、私が慶應義塾の自校史に呼ばれたならば、「福沢諭吉と新島襄」やら「慶應にはない同志社の特質」などを講義できます。その内容の一端は、本書に耳を傾けていただければ、掴むことが可能です。

■「新島襄の交遊録」シリーズが完結

まずは、新島襄に関してこれまでに出版した拙著の紹介です。2002年から取り組んできました「新島襄の交遊録」シリーズ（全7巻）が、ひとまず一段落しましたので、2020年から本来の新島・同志社史研究に関する著作刊行を始めました。その手始めが本書です。少なくとも3、4冊にはなります。

もっとも、かつての大河ドラマ「八重の桜」（2013年）のように、予期せぬ出来事が舞い降りてきて、しばし本流（新島・同志社史研究）から傍流（八重研究）に軸足を移すような事態が発生することがありますから、見通しは半分、不透明です。

「新島襄の交遊録」は、新島の周辺から新島に光をあてて、新島のイメージをより豊かに膨らませることが、主眼でした。そのために、キリスト教界（他教派）の名士、指導者だけでなく、セキユラーな政財官のVIPとの交流も取り上げました。しかし、主流はもちろんキリスト教界の中でも同志社系の教派である会衆派（組合教会）に所属する人たちです。組合教会の指導者（牧師）や信徒、さらには徳富蘇峰のような「超有名人」だけでなく、無名の卒業生をも含めた教え子たちから見た恩師の回顧など、多彩なデータを収録しました。ジャンル別、出身地別に登場した卒業生・中退者はおよそ180名にも上りました。

参考までにシリーズ全7巻の書名を挙げてみます。

『新島襄と徳富蘇峰---熊本バンド、福沢諭吉、中江兆民をめぐって---』（晃洋書房、2002年）

『新島襄の交遊----維新の元勳・先覚者たち----』（同朋舎、2005年）

『徳富蘇峰の師友たち---『神戸バンド』と『熊本バンド』----』（教文館、2013年）

『新島襄の師友たち---キリスト教界における交流----』（思文閣出版、2016年）

『新島襄と明治のキリスト者たち---横浜・築地・熊本・札幌バンドとの交流---』

（教文館、2016年）

『新島襄の教え子たち（ジャンル別）』（同朋舎、2019年）

『新島襄の教え子たち（出身地別）』（同前、2019年）

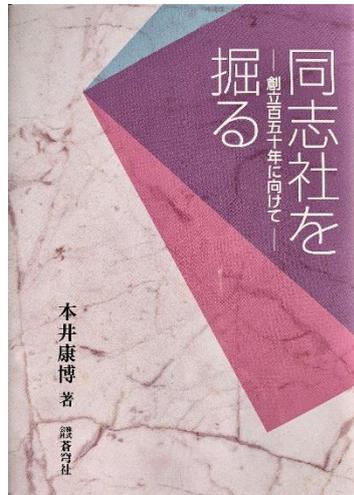
■「同志社外史」

これらに引き続き、同志社創立145年記念日（2020年11月29日）に新著『同志社を掘る-創立150年に向けて--』（蒼穹社刊）を刊行しました。書名から窺えますように、いわば「同志社鉞山」の発掘報告です。

半世紀にわたって掘り続けてきた作業から分かることは、同志社の奥深さです。他大学には見られない金鉞や銀鉞がいくつも埋もれています。同志社という鉞山は、掘っても、掘っても、掘り尽くすということはありません。ほんとに「宝の山」です。本書は、その成果の一部（それでも豊かです）をいわば「お裾分け」として、読者に提供したくてまとめました。

おりしも、創立150年が身近に迫った同志社（法人）では、すでに150年史の編集委員会が発足し、『同志社150年史』（仮称）刊行に向けての取り組みが始まっています。法

人が刊行する『同志社150年史』を「正史」とするならば、今回の拙著は私家版、あるいは「裏面史」(外史)に当たります。書名の副題を「創立150年に向けて」とした所以です。



■「外史」の狙い

「外史」には、「正史」にはない魅力があるべきです。そのために、本書は次の三点を狙いとしています。

(1) 学園「正史」が取りこぼす秘話や見落としがちな陰の部分にも出番を用意して、「正史」を補完するとともに、読み物(ストーリー)としても興味深い作品に仕上げる。「正史」がバランスをとった通史とするならば、本書は著者独自の視点と嗜好・関心から選んだ異色のテーマごとに分析、紹介する「課題史」である。

(2) 単に一私学の学園史にとどまらず、これまで日本プロテスタント史の領域で私的に積んできた新島襄や同志社史に関する研究実績を、日本近代史の中に正当に位置づけるための模索を試みる。

(3) 読者、とりわけ同志社の卒業生に、創業者・新島襄その人への関心を高め、歴史の興味と感動をあらためて体感してもらえるような話題をできるだけ取り上げる。

その際、文字だけでなく、印象的に目に訴えるために同志社秘蔵の写真を始め、珍しい新旧の写真(30枚)を掲載する。

以上、本書では同志社の歩みと働きが、日本の私学として極めて特異である消息を明示いたしました。と同時に、私たちの先輩がこれまで、さまざまなジャンルで独自の貢献を果たされたことを文字ならびに画像で紹介、実証することにも努めました。

読者は同志社ならではの貴重で豊かな鉱脈に触れて、母校の独自性と特色を再発見していただけるものと信じます。同志社は恰好ばかりの伝統校ではありません。

■本書の目次

体裁は、2段組650頁近い菊版の「大作」になりましたので、内容も多岐にわたります。時代的には、歴史書として同志社史の前半、とりわけ新島時代とその後の分析が主流です。全体は9章です。目次を示しますので、あらかじめ本書の構成をつかんでください。各章の個別の内容紹介は、次回(2)と次々回(3)で行ないます。

<目次>

I 創立秘話

- 一、維新三傑と同志社
- 二、同志社の完成は二百年か---新島・海舟座談の謎を解く-----
- 三、同志社女学校創立の謎
- 四、新島伝のブラックホール---校長よりも田舎牧師----

II 佛教界との軋轢

- 一、初期の同志社をめぐる佛教界の動向---新島襄と佛教徒---
- 二、同志社演説会---キリスト教と佛教(一八八〇年~一八八一年)----
- 三、同志社基督教演説会の波紋----キリスト教と佛教-(一八八一年)-----
- 四、条約改正と排耶運動---キリスト教と佛教(一八八二年~一八八四年)----

III ミッションとの抗争

- 一、同志社はだれのもの----「内憂外患」の危機---
- 二、同志社神戸移転論
- 三、同志社大阪移転論
- 四、自給論をめぐる同志社とアメリカン・ボードの抗争
- 五、同志社総長人事をめぐるミッションとの抗争---学外者の起用をめぐる---

IV 潰えた学校

- 一、同志社仙台分校・東華学校
- 二、講演・京都看病婦学校と同志社病院
- 三、講演・同志社政法学校

V 校舎と施設

- 一、中井屋敷----最初の校舎(寺町キャンパス)-----
- 二、第二寮
- 三、同志社墓地
- 四、フレンドピースハウス(ハワイ寮)
- 五、三十番教室(初代神学館)
- 六、同志社建築史におけるW・M・ヴォーリズ

VI 社会福祉・社会事業

- 一、講演・社会福祉界における同志社の人脈
- 二、新島襄と「同志社派」の三人
- 三、山室軍平
- 四、石井十次
- 五、「同志社は日本の社会事業にいかなる貢献をしたか」（大久保利武）
- 六、「同志社神学校の社会福祉コース」（S・C・バートレット）

VII 芸術

- 一、同志社と美術
 - (一) リベラル・アーツ教育
 - (二) 同志社の美術
 - (三) 「同志社の肖像画」を描いた人たち
 - (四) アーモスト大学の新島襄肖像画
- 二、同志社と音楽
 - (一) 日本の音楽教育の始まり
 - (二) 新島襄と音楽
- 三、同志社と文学
 - (一) 同志社文芸史
 - (二) 漱石とキリスト教-----同志社人脈・「野の人」たちとの交流-----

VIII 体育・スポーツ

- 一、新島襄と運動・スポーツ
- 二、体育の成立とミッション
- 三、日本の体育の源流を探る----水脈としてのアーモスト-----
- 四、キリスト教と体育・スポーツ
- 五、同志社体育の開拓者・ラーネット
- 六、同志社初の女性オリンピック----横田みさを（一九三二年L A大会）-----

IX 『同志社百五十年史』にむけて

- 一、部局史
- 二、同志社教会史の視点
- 三、『新島襄全集』補遺版、『新島襄事典』、『同志社史事典』の刊行
- 四、同志社史へのデータ提供----教え子たちから見た新島襄と同志社----

おわりに / 初出一覧表 / 掲載写真一覧表 / 人名索引 以上